

2017年10月4日

各位

- ・応用物理学会放射線分科会医療放射線技術研究会
- ・多様な新ニーズに対応する「がん専門医療人材(がんプロフェッショナル)」養成プラン
(首都大学東京大学院人間健康科学研究科量子イメージング技術者養成コース)
- ・首都大学東京大学院人間健康科学研究科放射線科学域医学物理士コース

共催

「放射線検出器の研究シーズと医療現場ニーズに関するシンポジウム（第4弾）」

～ ホウ素中性子捕捉療法に関する測定技術と検出器開発 ～

の開催案内について

近年の医学の進歩は目覚ましいものがあります。とくにゲノム科学の成果をがん医療へ活用する試みなどはその最たるものです。これらの科学の進歩とともに個々の状況に応じたがん医療の最適化が進むことが容易に想像されます。放射線治療の領域でも、その個々の状況に応じた治療法の選択肢の一つとなり得る、ホウ素中性子補足療法（BNCT）の実用化が進んでいます。中性子とホウ素薬剤の反応を利用してがんを選択的に破壊する新しい治療法で、わが国でも病院内加速器 BNCT の臨床試験がはじまるなど期待が高まっています。

そこで、本研究会の今回のテーマは「ホウ素中性子捕捉療法に関する測定技術と検出器開発」です。BNCTに関する概要はもちろんのこと、量子イメージングによる治療効果予測や、最新の測定技術と検出器の開発状況について、それぞれの専門家の先生方に具体的にお話を頂きます。

医療放射線技術研究会は放射線物理の医療応用について情報交換することを目的としています。臨床現場に携わる医師・診療放射線技師・医学物理士から計測技術の医療応用を目指している研究者まで広くご参加をお待ちしています。また、本研究会は首都大学東京「多様な新ニーズに対応する「がん専門医療人材（がんプロフェッショナル）」養成プラン*との共催であり、本シンポジウムが専門医療人の人材育成の一助となることも期待しております。奮ってのご参加をお待ち申し上げます。

参加希望の方につきましては、末尾のフォームを記入の上【12月31日まで】に首都大・眞正（shinsho@tmu.ac.jp）までご連絡ください。

記

- 開催日： 平成30年1月6日（土）
場所： 首都大学東京荒川キャンパス 大視聴覚室
参加費： 無料（懇親会は会費4,000円予定、当日現金を集めます）
定員： 100名程度
備考： 医学物理士認定機構の業績評価点の対象（コードF1/F2単位数3）として出席証明書を発行いたします。認定番号：JBMP-2017-F-12

*多様な新ニーズに対応する「がん専門医療人材（がんプロフェッショナル）」養成プラン連携大学
首都大学東京、東京大学、横浜市立大学、東邦大学、自治医科大学、北里大学

プログラム案

13:00-13:25 受付

13:25-13:30 開会の辞 福士 政広 (首都大学東京)

13:30-14:05 BNCT の概要と現状

(講演 30 分 質疑 5 分)

講師：田中 浩基 先生 (京都大学 原子炉実験所)

14:05-14:50 BNCT の治療効果予測のための量子イメージング技術

(講演 40 分 質疑 5 分)

講師：吉本 光喜 先生

(国立がん研究センター 先端医療センター)

14:50-15:35 国立がん研究センター中央病院での BNCT のコミッションング状況と測定について

(講演 40 分 質疑 5 分)

講師：中村 哲志 先生 (国立がん研究センター 中央病院)

15:35-15:45 休憩 (10 分)

15:45-16:30 BNCT 用中性子源開発と関連する測定技術

(講演 40 分 質疑 5 分)

講師：渡辺 賢一 先生 (名古屋大学大学院 工学研究科)

16:30-17:15 BNCT に関する測定技術

(講演 40 分 質疑 5 分)

講師：田中 憲一 先生 (広島大学大学院 工学研究科)

17:15-17:20 閉会の辞

青木 徹 (静岡大学)

18:00- 懇親会

【参加申込フォーム】

氏名：

所属：

懇親会：参加・不参加 (どちらか選択ください)

世話人：首都大 眞正 浄光 (shinsho@tmu.ac.jp), 井上一雅 (kzminoue@tmu.ac.jp)

量研機構放医研 田島英朗 (tashima.hideaki@qst.go.jp), 古場 裕介 (koba.yusuke@qst.go.jp)